

1 研究主題

児童・生徒の国語力向上のための指導のあり方をさぐる

2 研究内容の概要

(1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場 中条小学校 15:30～ 参加者16人

(2) 第2回部会 「講演会・グループワーク」 会場 黒川公民館 9:30～ 参加者14人

① 講演・グループワーク 「児童・生徒の国語力向上のための指導のあり方」

② 指導者 山崎 勝之 先生（吉田南小学校 教頭）

③ 概略

- ・ 国語の力が高まる指導として「話し合い」を挙げてお話しいただいた。「相手が何を言いたいのか探りながら聞くこと」や「相手の話を受けてその内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる」ようにすることを通して、考える力を高めていくことが大切である。
- ・ 国語力向上のサイクルとして、「運用・活用・応用」→「比べる・質問する・考えを見直す・根拠を明確にする」思考力→「習熟・修正・教科」→「思いや願いを伝える言語活動」をお示しいただいた。どのように具現化していくかが国語主任の役割である。
- ・ グループワークでは、小2教材「読んで説明の仕方を考えよう」、小4「三つのお願い」などを取り上げて、「国語力の向上」という観点で教材研究の仕方を話し合った。

(3) 第3回部会 「授業研究会」 会場 黒川中学校 13:40～ 参加者 10人

① 授業者 畔野 智行 先生（黒川中学校 教諭）

② 単元名 古典との出会い「蓬萊の玉の枝～『竹取物語』から～」

③ ねらい 本文をもとに作った台本を使い、登場人物の心情や場面の雰囲気が伝わるような朗読劇を演じることができる。

④ 参観後の意見・感想

- ・ 生徒たちの親和的な雰囲気がよかった。友達のよさを認めようとする雰囲気があり、表現を認め合う雰囲気が児童の活動を支えていた。
- ・ 相互評価を行っていたが、その観点について具体的に確認する必要があった。
- ・ 古典の入門期の生徒の「音読」を「劇」で表現させることはよかった。しかし、表現につながるためには「確かに読める」ことが大切なので、内容理解や発音などの基本事項の確認が必要であった。



3 成果と課題

(1) 成果

① 夏の研修では、小中の教諭が「この題材でどのような力を育てるか」を具体的に話し合うことができ、互いの実態、実践の交流ができた。

② 秋の授業研究では、中学校での実践を公開していただくことができ、小中の古典指導のつながりについて理解が深まった。

(2) 課題

① 中学校での実践公開を受けて、そのスムーズな連結を図るという意味で、どのような指導を小学校・中学校で行っているのかなど、さらなる情報交換が必要である。

② 来年度の中学校における指導要領全面实施を受けて、「国語力」の中のキーワードを設定して取り組むこともよい。